

TRANSFORM

高

2017. 11. 7
第 68 号
神港学園高等学校
校訓
進取・錬磨・礼節

硬式野球部

秋季兵庫県高等学校野球大会が9月9日(土)より開始されました。

本校はシードされているものの、私学強豪校がひしめき合う組み合わせとなりました。

1回戦は、神戸国際大附属と対戦して4対3で勝利し、2回戦滝川第二にも、7対5で勝利しました。

3回戦の東洋大姫路には、4対1とリードされていましたが9回に同点に追いつき、延長戦のすえ13回表に1点を取り、息詰まる接戦をものにした。

準々決勝は県立淡路三原と対戦。6回に逆転を許しましたが、7回に追いつき、8回に6対5と逆転。またもや粘り強さを見せて勝利しました。準決勝は、県立西脇工業と対戦しました。5回



までは3対0でリードしていましたが、6回から2点ずつ得点され、9回表には6対3と逆転されました。最終回に反撃に転じましたが、得点は1点止まりとなり、4対6で敗れてしまいました。

近畿大会は各県3校の出場枠なので、3位決定戦に臨むことになりました。対戦相手は市立尼崎。初回の裏に3点を取り、幸先よいスタートを切りました。2回、3回、7回と1点ずつ返され同点になりました。

したが、7回裏に1点を取って突き放し、4対3で勝利。3位で近畿大会出場となりました。

その近畿大会の組み合わせは、初戦京都府1位の乙訓高校でした。

試合は台風の影響を受けて日程が順延し、10月24日(火)に大阪市の舞洲にある大阪シティ信用金庫スタジアムで行われました。

先攻で始まった初回、走者が出たものの無得点に終わり、逆に2点を入れられてしまいました。その後も得点されましたが、5回には反撃を開始。勢いづくかとも思われましたが、残念ながら1点止まりで終わってしまいました。

結果、7回コールド負けとなりました。

多くの接戦を勝ち抜いてきたことが、大きな自信となつて、逞しく成長してくれました。

【登録選手】2年亀谷侑汰(姫路市立広嶺中)、海端紅波(同飾磨西中)、戎佑斗



(明石市立魚住中)、通山将隆(同魚住東中)、増田星(同衣川中)、齊部滉人(神戸市立本庄中)、佐々木翔悟(同丸山中)、小嶋温仁(同桜の宮中)、竹本雄貴(同有野北中)、塩塚陽人(加古川市立加古川中)、池田開(同平岡中)、山本翔琉(同中部中)、前田武斗(相生市立双葉中)、戸倉伊武希(篠山市立篠山中)、1年西山賢吾(和歌山市立西脇中)、羽地直喜(尼崎市立小田中)、矢野佑(西宮市立大社中)、小堀大空(同真砂中)、河野春輝(東近江市立船岡中)、中島太陽(姫路市立朝日中)

ちょっと一言 「高校通算本塁打数」が、今年はよく話題に上りました。それは早稲田実業高校の清宮幸太郎君が、111本の新記録を樹立したからです。それまでの1位は、本校卒業生の山本大貴氏(平成25年卒、淡路市立東浦中出身、JR西日本)のもつ107本の記録でした。清宮君の活躍で山本氏の記録は2位になってしまいましたが、3位から4位となった選手も、実は本校の卒業生でした。伊藤諒介氏(平成23年卒、姫路市立山陽中学校出身、法政大学、大阪ガス)で記録は94本でした。記録は破られましたが、再びこれらの記録を塗り替えてくれるホームランバッターが本校に現れてくるのを期待したいものです。